

大学院生だった平成30年4月から7月までの約4カ月間、ルワンダのオリンピック委員会にインターンをし、市とルワンダをつなぐ役目を担わせていただきました。

ルワンダは1994年、民族対立による大虐殺がありました。現在は、経済で急速な発展を遂げていますが、その反面、経済格差が拡大しており、背景には民族対立の問題が根深く残っていると感じています。

その中でルワンダは「ジェノサイドメモリアルトーナメント」というスポーツ大会を、日本でいう終戦記念日に開催するなど、文化とスポーツを通じて平和を実現することを国の目標に掲げて取り組んでいます。現在、ビジネス目的でルワンダになじみのない競技が、諸外国から押し進められています。今回のホストタウンの取り組みはスポーツだけでなく、文化の面からも携わることで、ルワンダに寄り添った支援につながると思っています。ホストタウンによって、市とルワンダの関係がよりよいものになることを期待しています。



ルワンダってどんな国？

What kind of country is Rwanda ?

国土

岩手県と青森県を合わせたぐらいの広さで、面積は約2.6万平方キロメートル。首都はキガリ、人口は約1220万人です。

国旗



青色は青空と希望を、黄色は平和と協調を、緑色は豊かな農業と繁栄を象徴し、右上に輝く太陽は、国民の団結と未来への明るい展望を表しています。

公用語

ルワンダ語(キニャルワンダ語)、フランス語、英語、スワヒリ語。

ルワンダ・ジェノサイド

植民地時代に形作られた民族対立による内戦の勃発後、1994年4月に

ジェノサイド(民族の集団殺害)が発生し、7月までの約100日間に80万人ともいわれる市民が虐殺されました。

ルワンダはジェノサイドの後、国民融和の取り組みを進めており、その一環として出身部族を示す身分証明証を廃止しています。

千の丘の国

ルワンダは、丘の多い地形から「千の丘の国」(The Land of Thousand Hills)と呼ばれています。貴重なマウンテンゴリラなどの野生動物の豊かさで世界的に知られています。

食べ物

ルワンダでよく食べられているものとして、サツマイモ、豆類、トウモロコシ、キャッサバ、キビなどがあります。

代表的な料理として、淡水魚ティ

ラピアのグリル、キャッサバを湯でこねたウガリ、焼きバナナのマトケなどがあります。

ルワンダ・コーヒー

ルワンダでは、国民の約7割が農業に従事しており、コーヒーと紅茶が貴重な外貨獲得の手段となっています。特にコーヒーは国際市場で高く評価されています。

ICT立国

ルワンダ政府は、ICT立国による国造りを進めています。アフリカのICT拠点となることを目指し、国内のインターネット網は国土の95%をカバーしています。

ジェノサイド以降、急速な発展を遂げてきており、過去10年間の経済成長率は7.5%で「アフリカの奇跡」とも呼ばれています。



高層ビルが建つキガリ市内



山々が続く美しい緑豊かな景色



観光客に人気のマウンテンゴリラ



ティラピアや焼きバナナなど

花開く 交流の輪

ルワンダ選手団がホストタウン八幡平市で事前合宿



◆ホストタウンで盛り上げよう

第18回夏季オリンピックから56年ぶりに、東京で2回目のオリンピックが開かれます。

本大会は、日本の自治体と参加する国・地域の住民が、スポーツ、文化、経済などを通じて交流し、地域の活性化などに生かしていく目的でホストタウンを推進しています。

◆リンドウの交流でルワンダと

市は、平成26年からルワンダでリンドウの実証栽培を行ったことをきっかけに、同国と交流を始めました。28年にはリンドウなど切り花の商用生産を目指す現地法人の設立を受け、田村正彦市長が現地を視察し、今後リンドウを通じて両国の発展に期待を膨らませました。

現地生産者の努力が実り、環境に適応したりリンドウは順調に生育。30年5月に初出荷を迎えました。リンドウと共に築いてきた友好関係は、オリンピックホストタウンへと発展。出荷式で現地入りしていた田村市長とルワンダオリンピック組織委員会のムニャバギシャ会長が、事前合宿や文化・スポーツの交流に関する覚書を結び、8月にホストタウンに登録されました。

◆ルワンダの選手が八幡平市へ

登録から1年。ルワンダ選手団が7月23日から8月14日までの間、市を訪れ、事前合宿を行いました。期間中は、トレーニングに励んだほか、学生や市民らとの交流するなど、親交を深めました。



Training

ルワンダ選手団は、陸上・長距離（選手3人、コーチ1人）、自転車・ロードバイク（選手4人、コーチら3人）、ビーチバレー（選手8人、コーチ2人）の計21人。陸上と自転車は7月23日から8月13日まで、ビーチバレーは8月2日から14日まで合宿しました。

■陸上・長距離

全天候型トラックのある葛巻町に協力を要請し、同町総合運動公園の多目的グラウンドを主会場に午前にトレーニングを実施。400メートルトラックでインターバル走を行うなど、スピード持久力や心肺機能を効果的に鍛えました。

■自転車・ロードバイク

全日程、本市でトレーニングしました。宿泊先のホテル安比グランドから安比高原レインボーライン、岩手山パノラマライン、焼走り線までの往復約50キロが主なコース。リカバリーも考え、日によって強度（往復回数）を変更しながらトレーニングしました。

■ビーチバレー

洋野町に10日まで宿泊し、たねいち海浜公園特設会場でトレーニング。日中の暑い時間帯を避け、午前8時から10時までと午後4時から6時までの2部構成で行いました。

オリンピック出場へ

自らを追い込み鍛え上げる

= 陸上・長距離 =

葛巻町までの移動時間はありましたが、すばらしい陸上トラックがある環境でトレーニングすることができました。葛巻町では、地元の中高生や合宿に来ていた明治大学の学生と交流できたこと、トレーニング後に飲むミルクがおいしかったことが思い出に残っています。

最初の目標は東京オリンピック出場です。出場権を獲得して、来年また戻ってきたいです。

= 自転車・ロードバイク =

合宿では、ハードなトレーニングをすることができました。コースはアップダウンに富んでいて、長いストレートや細かいコーナーもあって、いろいろな状況下を想定できる最適なコースでした。

日本の気候や環境などを知ることができ、大きな経験を得ることができました。東京オリンピックでは、メダルを取って、ルワンダ国旗を掲げたいと思っています。

= ビーチバレー =

洋野町では、トレーニング会場、ホテルなど集中しやすい環境を整えていただき感謝しています。エキジビジョンゲームをしたこと、地元のお祭りに参加してダンス（ソーラン節）を踊ったことは楽しい思い出です。

帰国後に東京オリンピックの出場権を懸けた大会である「All African Games19」の出場を控えています。東京オリンピック出場を目指し、がんばります。

■陸上・長距離

▶選手▷男子 HITIMANA Noel（ヒチマナ ノエル）、TUYISHIMIRE Christophe（ツイシミレ クリストフ）
▷女子 YANKULIJE Marthe（ヤンクリヘ マルテ）
▶コーチ Karasira Eric（カラシラ エリック）※団長

■自転車・ロードバイク

▶選手▷男子 MUNYANEZA Didier（ムニャネザ ディディエ）、Renus UHIRIWE BYIZA（レヌス ウヒリウェ ビーザ）、ARERUYA Joseph（アレルヤ ヨセフ）、Bernabe GAHEMBA（ベルナベ ガヘンバ）
▶コーチ Sempoma Felix（センポマ フェリックス）
▶マッサージ RUVOGERA Obed（ルヴォゲラ オベドゥ）
▶メカニック Manirihho Eric（マニリホ エリック）

■ビーチバレー

▶選手▷男子 NTAGENGWA Olivier（ンタゲングワ オリビエ）、AKUMUNTU Kavalo Patrick（アクムンツ カヴァロ パトリック）、GATSINZI Vénuste（ガツンジ ヴェスツェ）、NIYONKURU Yves（ニヨンクル イヴェス）
▷女子 NZAYISENGA Charlotte（ンザイセンガ シャーロット）、HAKIZIMANA Judith（ハキジマナ ジュディス）、MUKANDAYISENGA Bénitha（ムカンディ センガ ベネィッサ）、MUNEZERO Valentine（ムンゼロ ヴァレンティン）
▶コーチ MANA Jean Paul（マナ ジャン ポール）、MUDAHINYUKA Christophe（ムダイニユカ クリストフ）

ルワンダ選手団メンバー



ノエル、マルテ、クリストフ



ヨセフ、ガヘンバ、ビーザ、ディディエ



オリビエ、パトリック



もつと、ずっと、
つながろう。

- 1 田山学童の児童とルワンダの小学生がテレビ電話で交流
- 2 コーチらがトレーニングの合間を縫って田山学童を訪問
- 3 洋野町U N I カップ優勝チームとエキシビジョンマッチ
- 4 さんさ踊りのパレードに参加してホストタウンをPR
- 5 安代中で開かれた交流会で一緒に折り鶴を作成。鶴も折り終わった頃にはすっかり打ち解けました
- 6 見本を見せながら、英語を交えて丁寧に教えました
- 7 七時雨カーンフェスに遊びに行きました
- 8 イオンモール盛岡で開かれたPRイベントに参加
- 9 交流歓迎会で飾ったリンドウを摘み取りました
- 10 交流歓迎会の締めは万歳三唱で選手らの活躍を祈願

進めることで、グローバル（地球規模）の視野で物事を考えつつ、必要に応じて地域視点で行動する（な人材の育成や観光振興など地域活性につながる大きな可能性を秘めています。

これから選手らは、東京オリンピック出場を懸け、アフリカで厳しい戦いに挑みます。出場権を得て、また日本に、そして八幡平市に来ることを誓った仲間との再会に期待を膨らませ、日本からルワンダ選手らの活躍を祈っています。

ムラコゼチャーネ ルワンダ！

八幡平市入りした初日、ルワンダ選手団のカラシラ エリック団長は「一生懸命トレーニングして、競技者として強くなつて帰りたい。そして日本の文化を体験したい」と本合宿の目的を語りました。競技者としてトレーニングに励むことはもちろんですが、自分の知らない他国の文化に触れることは、視野を広げ、人として成長する糧になると分かっているからです。

ルワンダ選手らは期間中、忙しい合間を縫って、地元の祭りや運動会などのイベントを見学したり、学校や学童を訪れ児童生徒らと交流したりと、日本でできないことを経験しました。そして、それは今回ルワンダ選手らと交流した人も同様です。片言の英語とジェスチャーで思いを伝えようと挑戦し、相手のことを知ろうとしました。

リンドウを通じて始まったルワンダとの交流が、ホストタウンを実現し、今回の事前合宿で、市民の中でもルワンダという国を知り、興味を持つ人の輪が広がっています。ホストタウンは必ずしも事前合宿を前提とするものではなく、参加国と地域が交流を図ることが目的です。東京オリンピックを契機に、市が国の枠を超えて国際交流をこれまで以上に

折り鶴を一緒に作ってルワンダ選手の活躍願う 安代中学生会長 佐々木 萌 さん



言葉が通じないところがあつたけど、心を込めて丁寧に教えることができました。安代のリンドウがきっかけで外国とつながることができてうれしいです。これからはリンドウだけでなく、市のいいところをもっと広めていきたいと思います。

ルワンダの小学生とテレビ電話でつながり 田山小5年 佐藤 純也 君

初めて外国の小学生と話しました。最初は緊張したけど「どんな食べ物が好きですか」など質問し合ったり、歌を披露し合ったりして、打ち解けることができてよかったです。お互いの国を訪問し合っ、もっと交流できればいいなと思っていました。



歓迎交流会で飾ったリンドウを選手らと摘み取り J A新いわて花き生産部会副部会長 工藤 佳輝 さん



リンドウが縁で交流の輪が広がってうれしいです。1月に視察でルワンダに行きました。栽培環境の違いはあれど、年中安定した気候のルワンダは、出荷時期をコントロールできるなど可能性を秘めています。リンドウ栽培を通じて、ルワンダを応援していきたいです。

ルワンダ選手が活躍できるような環境づくりを 地域おこし協力隊 渡邊 清大 さん

ルワンダとのテレビ電話や安代中での交流会などを企画しました。また、選手やコーチらとさんさ踊りやイオンでのイベントで、ホストタウンをPRしました。本大会に向け、市民の皆さんにもルワンダを知ってもらい、一緒に応援したいと思っています。

